

海外友好都市ドイツ「ドナウエッシンゲン市」学生訪問団

ドイツでできた、かけがえのない

宝物

本市とドイツ・ドナウエッシンゲン市（以下ド市）間では、毎年学生交流を行い、一年ごとに互いのまちを訪れ、異文化を学んでいます。

今年度は上山明新館高等学校の5人がド市を訪問。7月31日から約2週間、ホストファミリーのもとでホームステイを経験した彼女たちの1ページをのぞいてみましょう！



Q.ホームステイで得た「一番の学び」は何ですか？

(9月22日報告会より)



石川夏妃さん（2年）

A.ジェスチャーを交えながら楽しく会話ができるようになったことです。ド市で出会った友達は一生大切にしたい宝物です。



大澤佳那さん（2年）

A.日本語が通じない環境で生活した経験です。ドイツの文化を教えてもらい、もっと深くドイツを知りたくなりました。



吉田陽菜乃さん（2年）

A.話を聞く姿勢です。日本のことを知ろうと積極的に話しかけ、話を聞いてくれたド市の人たちに強く心を打たれました。



島田結衣さん（2年）

A.家族の温かさや大切さです。ホストファミリーは家族の時間を大事にしている、私にもその一員として接してくれました。



阿部小雪さん（3年）

A.気持ちを共有する大切さです。日本文化を「教える」のではなく「一緒にする」ことで心を通わせることができました。